

第3回 校長会議あいさつ

R8.5.29 稲垣

命溢れる万緑の時を迎えています。中学校では修学旅行や新入生の部活動参加が始まり、多くの小学校で運動会も催されました。また、間もなく学校訪問も始まります。子どもたちの姿が生き生きと輝くような、授業づくりの工夫を期待しています。

教師は、常に判断を求められ続ける仕事です。子どもたちに何かを教えようとする時、教師は自問します。この学習内容をどう教えるか、あるいは、今起こったことをどのように評価し、子どもたちにどう伝えるか。学習指導にせよ、生徒指導にせよ、千変万化の状況と子どもたちの心情を慮り、特質を勘案して、臨機応変に対応していかななくてはなりません。

担任から始まった判断の日々は、立場が上がるにつれて、視野を広げ、今後の展開を想像することが求められます。とりわけ管理職ともなると、教職員全体の共通理解のもと、子どもたちの笑顔を保障し、保護者や地域の理解が得られるように、学校の信頼感を維持する方向性を模索しなくてはなりません。実際には「言うは易し行うは難し」だと思います。私の場合、迷ったときに常に振り返るフレーズがあります。それは「私は今、何を守ろうとしているのか」です。

単元構想や本時の指導過程を作っていて、迷った時の定石は、ご存知のように「目標に戻れ」です。これは、児童会生徒会活動をはじめ、学校行事や部活動等、あらゆる指導場面に共通しています。私たちが大きく迷う時は、たいがい目標が不明瞭になっている時です。

生徒指導や保護者対応においては、守らなくてはならないものが複雑に関係し、幾つも存在するケースがあります。その際、対応姿勢の要所となるのは、守るべき順番を明確にして、上から順にできる限り多くを守ることです。想像力を駆使してそのための手立てを見出し、皆の協力を得てそれを具現化できるかという点だと思います。抽象的な文脈で恐縮ですが、斟酌していただき、学校経営の糧とするとともに、教頭先生は言うまでもなく、諸先生方にもかみ砕いてご指導くださいますようお願いいたします。